

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0390800035
法人名	株式会社三協医科器械
事業所名	グループホームあったかいごひといち
所在地	岩手県遠野市中央通り5番25号 (電話) 0198-63-1516

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通8-19-1		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	1月28日

## 【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年	5月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	9人	常勤	9人	非常勤 人, 常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	300円	昼食 300円
	夕食	300円	おやつ 昼食費に含まれる
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81歳	最低	65歳	最高	90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	あいずみ内科、佐藤歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商店街に位置し、以前は家具屋だった建物を改築して下はデイサービスと訪問看護の事業所、上がグループホームとなっている。訪問看護やデイサービスとの連携もあり、また地域の活性化も期待され、ハロウインのカボチャを飾ったり、クリスマスの飾りなど商店街と一緒に取り組んでいる。地域が明るくなったとの声も聞かれ、幼稚園児の訪問もある。地元のお祭りはホームの玄関から座って観ることもでき、地元の「グループホームとおの」と一緒にお祭り見学をしたり、利用者・職員共に良い交流の機会となっている。地域の方々からも「ボランティアに行ってもいい？」などと声をかけて頂けるようになっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念は職員と一緒に話し合い実践している。「ともに和み、共に生きる」利用者と職員の関係ではなく、いたわりながら生活を共にしている。利用者の家族は、神奈川など遠方に暮らされているが、病院受診など月に1、2回は面会に来られ、運営推進会議に参加されている。家族会はないが、よくご家族との交流が持たれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は勉強の機会と捉え、全職員にコピーを配布し記入してもらい、その後話し合いを持った。外部研修には参加しているが、ホーム内の勉強はこれから取り組んでいきたいと思っている。昨年、開所してから施設長や管理者も今年になり異動し、また職員の離職も少なくない中で、今後の取り組みに期待したいと思う。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	いろいろな家族に参加していただきたいと思い、家族が遠野に来る日程に合わせ、運営推進会議を開催している。また緊急協力隊(火災や地震などの時の協力隊)や運営推進会議のメンバーで、芋煮会を開き、交流を図っている。会議は、おやつを利用者と一緒に食べたり、日ごろから利用者の様子を見ていただけるよう取り組んでおり、顔馴染みとなっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は遠方に暮らしている家族も少なくない状況であるが、月に数度の訪問により家族対応で通院されている。情報提供や家族からのご意見を聞くように取り組んでいる。職員により対応が異なる面もあり、これからは、家族から質問や苦情があった場合に、どの職員であっても同じように対応できるように会議を持った。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	商店街の中に位置し、遠野市からの要請もあり家具屋だった建物を改築して、デイサービス、訪問看護・居宅介護支援・グループホームの4事業が展開されている。商店街の一員としてプランターに花を飾る、イベントに参加する、季節にあわせ飾りつけをするなど、商店街との調和を大切にしている。食品の買い物に利用者と職員とで歩いていける、地域の催しをいつも目の前で見ることができる、また商店街からは明るくなったとの声も聞かれ、活性化に貢献している様子がうかがえる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	商店街の一員として地域に密着した生活の中で、利用者個々の生活歴を大切にしながら、外出により地域の方々とふれあい、利用者の気持ちに沿いながら一日を過ごしている。地元商店街の活性化にも貢献され、生活していた地元で暮らすことができていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を全職員で話し合い「共に和み、共に生きる」、利用者として関係だけではなく、共にいたわりながら生活していきたいと考えている。日常生活においては、穏やかに自由な生活を送ることが出来るように声かけなどに留意している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	遠野市からの要請もあり商店街の中に位置し商店街の一員としてイベントに参加したり、季節に合った飾りつけをしている。また緊急協力隊などの協力態勢もあり、歩いて買い物に出かけたり、車椅子で近所の公園に出かけ、地域の方々からも日常的に声をかけていただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	勉強の機会ととらえ、職員全員で取り組んでいた。前年度はほとんどの項目が出来ていたが、今年度は施設長や管理者も代わり、今後新たにグループホームの特色や成長が期待できることと思われる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーと利用者の触れ合う機会を多く持っている。会議の開催により近所の情報が集まり祭りなどの誘いを受けることもある。いろいろな利用者の家族に参加してもらおうと来所に合わせて会議を開催するなどの工夫もなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回、市の長寿課にグループホームの状況を電話で連絡・報告をしている。2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。包括支援センターからは非常時の備品の中に両合羽があってもいいのではと助言があり、利用者・職員分を準備しました。(利用者と一緒に手作りおやつを食べて頂き、日常を見ていただくよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議の議事録や、広報・金銭の立て替えを報告している。金銭は利用者の中で、1人の方が自分で管理しているが、他の利用者の方は(事業所が)立替えて欲しいものを買っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに訪れたときに何か無いか聞き取るようにしている。苦情があったときには速やかに対応し、会議において全員で対応について話し合いを持つようにしている。投書箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成18年に開所して以来、6名の異動や退職があり、施設長や管理者も代わった。顔見知りとなっているデイサービスの職員がグループホームの管理者になっている事で、利用者はゆったりと落ち着いている。	○	会社としての異動、または離職についても仕方のないこともあると思われるが、利用者にとっては馴染みの関係が構築できるような運営体制であって欲しいと考える点から、ストレスはどうか、などの把握を意識的に行い、職員を定着させるための方策を考えていくことも望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が日勤3、4名となっているので、外部研修には出来るだけ参加している。現在の課題として、グループホーム内での研修が出来ていないことが挙げられる。2級ヘルパー資格の習得のため勤務調整等に配慮している。	○	経験の少ない職員を意識的に育てていくための計画が求められる。同法人内の事業所と合同の研修を行うことも有効のように思われる。今後、介護福祉士等の資格取得等によるスキルアップを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会への出席や、交換研修として「グループホームとおの」、また「長寿の里」のユニットケアや系列「グループホームのみんなのいえ」で研修を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人のデイサービスを利用し、1人暮らしが大変になったことによりグループホームに入居された利用者もいる。職員が家庭訪問したり、家族が可能な限り、一緒に事前にグループホームで泊まっていたなどの工夫がなされている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は1人で調理することのないよう手伝いやすいよう配慮している。気の向かないときには味見をして頂くなど、出来るだけ参加していただいている。また、利用者間で「皿を持ってきて」と声掛けをして協力し合っている時もある。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望のある利用者は、ほぼ毎日自宅まで散歩し納得していただけるよう支援している。また、ご家族が、月に一度、帰省する日にあわせ自宅に外泊している方もいる。利用者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	夜勤・日勤で利用者の担当があり、日常の様子を記録している。日常生活の中から利用者の意向を確認し、ご家族の面会時に日ごろの様子を伝え、希望や意見を確認し、月に一回グループホーム会議で検討して介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一度、居室担当職員と計画作成者などでモニタリングを行い、3か月に一度、担当者会議の場で評価を行い、介護計画を作成している。また退院時などの状態の変化のあるときには随時、家族と一緒にプランの見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方のご家族の負担の軽減が図れるように、検査のときには職員が同行し、結果をご家族が聞きに来られるよう配慮している。また法人内のデイサービスで過ごし、気分転換をされる利用者や、広いデイサービスのお風呂で温泉気分が味わえるよう、希望があるときには対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方がかかりつけ医を受診している。受診は家族が付き添っているが、遠方のご家族の負担の軽減に配慮し、検査のときには職員が付き添うようにしている。	○	歯の少ない利用者もおられ、今後口腔ケアや嚥下機能の維持改善が図れるよう、訪問歯科診療などの検討を期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内の訪問看護の連帯により24時間の看護師の対応が可能となっている。ご家族の希望もあり、終末ケアに取り組んでいる。職員の不安が軽減できるよう連絡体制を確認し、何度も話し合いを持った。他の利用者と同じように接していこうとの方針が共有されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	希望者は居室内に内鍵が掛けられるに配慮している。リネン交換も利用者とともに同意を得ながら行うようにしている。食事の席も利用者の状態により、他の利用者に気を使ったり、トラブルにならないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は朝9時から夕方4時ころまで、利用者の希望により対応している。また食事時間も各自のペースに合わせているが、利用者から食事時間をきめて欲しいとの意見もあり、7時、12時、18時となっている。買い物や散歩など利用者の希望に沿った援助を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には栄養士が献立を作成しているが、利用者の希望により献立の変更をしたり、一緒に買い物に行った先で、旬の物に変更する時もある。また、カレーライスの嫌いな利用者には肉じゃがにするなど配慮している。買い物から調理、片付けなど、利用者と一緒に行うよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は朝9時から夕方4時ころまで、利用者の希望により対応している。デイサービスの休みのときには、利用者の希望により温泉成分のあるデイサービスの広いお風呂で温泉気分で入浴することもある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることを大切にしながら、カーテンの開閉、カレンダーをめくり、リンゴの皮むき、クッションカバーや布団カバーの作成により、利用者の良い刺激になり自分でボタン付けをするようになった利用者もいる。自分でしたいという気持ちを大切にしながら、常に感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩いて買い物に行ける環境により、食材の買い物や、毎日散歩に出かけている。外出したがない利用者には近所の公園に出かけるなど、閉じこもりを予防するよう支援している。地域の顔見知りの方に声をかけていただいている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入浴の介助によりホール内に職員が少なくなった時や不穩の強いときに、一時的に鍵をかけた時もあるが、普段はかけていない。出入り口にはセンサーを設置、エレベーターで降りて行かれる利用者には階下のデイサービスに見守りをお願いしている。夜間19時30分から朝7時まで施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	6月に消防署に来てもらい避難訓練を行った。避難訓練の際には、利用者の部屋を確認したら名札を返すなど、効率よく確認ができるよう工夫がされている。9月には通報訓練を行った。	○	施設が商店街の中にあることから夜間想定避難訓練が必要と思われる。近所の緊急協力員の方も含め、役割分担を明確にした訓練が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	800ml～1,500mlを水分摂取量の目標としている。嚥下状態により食事時間が長く、摂取量も少ない利用者には、プロテインやトロミをつけるなど工夫している。また栄養士による見直しもしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上の制限もあり、食堂や廊下に利用者がくつろげるようなスペースを確保することが課題となり、検討されている。	○	洗濯干し場の整備の予定もあるが、今後も利用者がくつろげるよう、環境整備の継続を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階がグループホームになっているので、大きな家具は持ち込みが大変になっているが、家族と相談しながら馴染みの物を持ってきていただくようにしている。	○	今後ご家族に働きかけ馴染みの物が増え、落ち着いたその人らしい部屋でくつろげるよう支援を継続していかれることを今後も期待したい。